

2016 年業績

原著

- 1) Kobayashi Y, Akiyama H, Hige J, Kubota H, Chikazawa S, Satoh T, Miyake T, Uhara H, Okuyama R, Nakagawara R, Aihara M, Hamada-Sato N : Fish collagen is an important panallergen in the Japanese population. *Allergy*, 71(5):720-723, 2016.
- 2) Kobayashi Y, Kuriyama T, Nakagawara R, Aihara M, Hamada-Sato N : Allergy to fish collagen: Thermostability of collagen and IgE reactivity of patients' sera with extracts of 11 species of bony and cartilaginous fish. *Allergol Int*, 65(4):450-458.
- 3) Saeki H, Nakahara T, Tanaka A, Kabashima K, Sugaya M, Murota H, Ebihara T, Kataoka Y, Aihara M, Etoh T, Katoh N ; Committee for Clinical Practice Guidelines for the Management of Atopic Dermatitis of Japanese Dermatological Association. *Clinical Practice Guidelines for the Management of Atopic Dermatitis 2016*. *J Dermatol*, 43(10):1117-1145, 2016.
- 4) Yamazaki N, Uhara H, Wada H, Matsuda K, Yamamoto K, Shimamoto, T, Kiyohara Y : Phase I study of pegylated interferon-alpha-2b as an adjuvant therapy in Japanese patients with malignant melanoma. *J Dermatol*, 43(10):1146-1153, 2016.
- 5) Inomata N, Miyakawa M, Aihara M : Eyelid edema as a predictive factor for sensitization to Pru p 7 in peach allergy. *J Dermatol*, 43(8):900-905, 2016.
- 6) Yamane Y, Matsukura S, Watanabe Y, Yamaguchi Y, Nakamura K, Kambara T, Ikezawa Z, Aihara M : Retrospective analysis of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis in 87 Japanese patients-treatment and outcome. *Allergol Int*, 65(1):74-81, 2016.
- 7) Watanabe Y, Yamaguchi Y, Komitsu N, Ohta S, Azuma Y, Izuhara K, Aihara M. Elevation of serum squamous cell carcinoma antigen 2 in patients with psoriasis: associations with disease severity and response to the treatment. *Br J Dermatol*, 174(6):1327-1336, 2016.
- 8) Watanabe T, Wada H, Hotta A, Okudela K, Aihara M : Case of adult-onset verrucous hemangioma developed after repeated trauma. *J Dermatol*, 43(3):348-349, 2016.
- 9) Okada R, Nakachi S, Inokuma S : The severity of peripheral blood eosinophilia indicates an eosinophilia-associated disease corresponding to its level. *Allergol Int*. 65(1):112-4, 2016.
- 10) Hotta A, Inomata N, Tanegasima T, Oda K, Inoue Y, Aihara M : A case of food-dependent exercise-induced anaphylaxis due to peach with Pru p 7 sensitization. *J Dermatol*. 43(2):222-223, 2016.
- 11) Ishikawa H, Yamaguchi Y, Nakajima Y, Miyazaki T, Wada H, Aihara M : Case of

widespread purpura due to emboli of *Candida parapsilosis*. *J Dermatol*, 43(2):216-217, 2016.

12) Katayama M, Inomata N, Inagawa N, Fukuro S, Aihara M : A case of contact urticaria syndrome stage 3 after honey ingestion, induced by epicutaneous sensitization during skin care with honey. *Contact Dermatitis*, 74(3):189-191, 2016.

1) 宮本秀明 : 携帯型ゲーム機による friction blister. *皮膚病診療*, 38(2):153-156, 2016.

2) 勝野正子, 佐々木哲雄, 宇津宮まりか, 竹下芳裕, 池澤善郎, 堀 武生, 奥原博久, 野澤昭典 : 右大腿骨に膿疱症性骨関節炎を生じた掌蹠膿疱症の 1 例. *皮膚臨床*, 58(1):45-48, 2016.

3) 勝野正子, 佐々木哲雄, 石川秀幸, 竹下芳裕, 野澤昭典 : DPP-4 阻害薬アログリプチン安息香酸塩(ネシーナ[®])による薬疹の 1 例. *皮膚臨床*, 58(1):79-82, 2016.

4) 勝野正子, 石川秀幸, 佐々木哲雄, 野澤明典, 亀井克彦 : *Sporothrix globosa* による高齢男性の手指背の生じた固定型スポロトリコーシスの 1 例. *皮膚臨床*, 58(5) : 679-682, 2016.

5) 勝野正子, 石川秀幸, 佐々木哲雄 : 高齢男性に生じた顔面播種状粟粒性狼瘡様外観を呈した多発性 *Eccrine Spiradenoma*. *皮膚臨床*, 58(5) : 760-761, 2016.

6) 内田敬久, 佐野沙織, 渡辺友也, 廣田理映, 澤城晴名, 相原道子 : 薬剤性乾癬 34 例の臨床的検討. *日皮会誌*, 126(3) : 295-302, 2016.

7) 萬谷直樹, 岡 洋志, 鈴木理央, 綾部原子, 鈴木まゆみ, 神山博史 : 漢方薬に対する好塩基球活性化試験—偽陽性を起こさない適正濃度について—. *日東医誌*, 67(1):67-71, 2016.

8) 萬谷直樹, 岡 洋志, 渡邊妙子, 鈴木理央, 綾部原子, 鈴木まゆみ, 神山博史 : 当帰四逆生姜湯を 3 年間服用し 63 歳になって初めて偽アルドステロン症を発症した 1 例. *日東医誌*, 67(1):72-74, 2016.

9) 篠田純子, 松倉節子, 久田恭子, 守田亜希子, 中村和子, 山川有子, 相原道子, 蒲原 毅 : 柑橘類によるアレルギーの 4 例. *J Environ Dermatol Cutan Allergol*, 10(3):225-231, 2016.

10) 白田阿美子, 渡辺みどり, 猪又直子, 松倉節子, 蒲原 毅, 北村 薫, 中山 哲, 相原道子 : 果物, 大豆アレルギーにおけるアレルギーコンポーネントの臨床的検討. *J Environ Dermatol Cutan Allergol*, 10(3):202-212, 2016.

11) 長島真由美, 中村和子, 鈴木麻生, 宇津宮まりか, 佐藤麻起, 守田亜希子, 河野真純, 松倉節子, 袋 秀平, 蒲原 毅 : 物理化学障害による皮膚病 フッ化水素酸による化学熱傷の 2 症例. *皮膚病診療*, 38(2):137-140, 2016.

12) 平田祐子, 中村和子, 宇津宮まりか, 河野真純, 須田昭子, 平田 豪, 室 慶直, 蒲原毅 : 卵巣癌治療中に発症し薬疹との鑑別を要した皮膚筋炎. *皮膚病診療*, 38(6):579-582, 2016.

13) 平田祐子, 中村和子, 山元麻生, 宇津宮まりか, 佐藤麻起, 河野真純, 蒲原 毅 : メトロニダゾール軟膏とミノサイクリン塩酸塩内服の併用療法が著効した酒さ様皮膚炎の 1 例. *皮膚臨床*, 58(10):1563-1567, 2016.

- 14)渡辺友也, 山口由衣, 大川智子, 佐藤 愛, 種子島智彦, 小田香世子, 和田秀文, 相原道子: 抗 PD - 1 抗体による皮膚障害 7 例のまとめ. 日皮会誌, 126(13):2419-2425, 2016.
- 15)松村康子, 川村杏奈, 和田秀文, 小野麻衣, 山中正二, 岡澤ひろみ, 毛利 忍, 相原道子: Sebaceous carcinoma, BCC with sebaceous differentiation との鑑別に苦慮した Poroma の 1 例. 皮膚病診療, 38(4): 403-406, 2016.
- 16)大野真梨恵, 佐藤 愛, 山田和昭, 寺田久雄, 瀬在由美子, 千葉由幸: 弾性繊維性仮性黄色腫. 皮膚病臨床, 38(7):691-694, 2016.
- 17)野崎由生, 猪又直子, 岡田里佳, 綾部原子, 相原道子: 湿布薬に配合されたサリチル酸グリコールによる接触皮膚炎の 1 例. 皮膚臨床, 58(13):1945-1948, 2016.
- 18)野崎由生, 内田敬久, 守屋真希, 竹林英理子, 池田信昭, 一山伸一: 関節リウマチに伴った肢端持続型丘疹性ムチン沈着症. 臨皮, 70(4):297-300, 2016.
- 19)堀田亜紗, 大川智子, 石田修一, 山口由衣, 中永和枝, 石井則久, 相原道子: 皮膚 Mycobacterium abscessus 感染症の 1 例. 皮膚臨床, 58(3): 445-450, 2016.
- 20)上原沙織, 米田真梨恵, 柴崎嘉子, 千葉由幸: Mycobacterium marinum 感染症の 1 例. 皮膚臨床, 58(7):1200-1201, 2016.
- 21)宇津宮まりか, 佐々木哲雄, 勝野正子, 竹下芳裕, 池澤善郎, 野澤昭典, 石井文人, 橋本隆: 掌蹠, 口腔粘膜を中心に水疱を認めた後天性表皮水疱症の 1 例. 皮膚臨床, 58(1):31-35, 2016.
- 22)宇津宮まりか, 鈴木麻生, 佐野 遥, 若松美智子, 佐藤麻起, 守田亜希子, 河野真純, 中村和子, 松倉節子, 蒲原 毅: G 群溶連菌による壊死性筋膜炎. 皮膚病診療, 38(1):41-44, 2016.
- 23)宇津宮まりか, 鈴木麻生, 佐藤麻起, 河野真純, 中村和子, 蒲原 毅: 高熱と大型の水疱形成がみられた急性痘瘡状苔癬状秕糠疹. 皮膚病診療, 38(3):263-266, 2016.
- 24)佐藤 愛, 米田真梨恵, 満尾晶子, 磯野伸雄, 千葉由幸: 好酸球性筋膜炎の 1 例. 皮膚臨床, 58(2):230-231, 2016.
- 25)佐藤 愛, 米田真梨恵, 磯野伸雄, 倉敷祐太, 千葉由幸: 多発性丘疹状毛包上皮腫の 1 例. 皮膚臨床, 58(5):756-757, 2016.
- 26)佐野 遥, 松倉節子, 若松美智子, 守田亜希子, 中村和子, 相原道子, 蒲原毅: 横浜市立大学附属市民総合医療センターにおける 4-ヒドロキシフェニル-2 ブタノールによる脱色素斑を生じた 35 例の検討. J Environ Dermatol Cutan Allergol, 10(1):18-24, 2016.
- 27)渡辺雪彦, 和田秀文, 佐藤麻起, 小田香世子, 相原道子: 石灰化上皮腫を合併した Rubinatein-Taybi 症候群. 皮膚病診療, 38(7):675-678, 2016.
- 28)片山美穂, 和田秀文, 稲川紀章, 加藤生真, 相原道子: 遺伝子検索を行った皮膚病 手指に生じた clear cell sarcoma. 皮膚病診療, 38(8), 825-828, 2016.
- 29)菊地彩音, 堀田亜紗, 渡辺友也, 和田秀文, 毛利 忍, 相原道子: 右上腕に発生した solid-cystic hidradenoma. 皮膚病診療, 38(12):1173-1176, 2016.

- 30)小越達也, 下山 潔, 小岩克至:陰茎結核疹と思われる 1 例. 臨皮, 70(4):311-314, 2016.
- 31)秋田亜紗美, 佐々木哲雄, 宇津宮まりか, 勝野正子, 石川秀幸, 竹下芳裕, 堀 武生, 野澤昭典:悪性抹消神経鞘腫瘍を併発した神経線維腫症 1 型. 皮膚臨床, 58(13):2013-2016, 2016.
- 32)遠藤 恵, 渡邊絵美子, 大方詩子, 栗原佑一, 宮川俊一, 入江理恵:小児の汎発性環状肉芽腫. 皮膚病診療, 38(5):479-482, 2016.
- 33)境 玲子, 飯田美紀:皮膚・毛髪への“身体集中反復行動”ー抜毛症, 皮膚むしり症, 皮膚の搔破行動ー. 児童青年精神医学とその近接領域, 57(2):298-309, 2016.

総説

- 1)池澤善郎:V.アレルギー性疾患 4.蕁麻疹 (3)血管性浮腫. 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ N0.35 免疫症候群(第2版)IIーその他の免疫疾患を含めてー, 75-83, 2016.
塩原哲夫, 相原道子, 池澤善郎, 松倉節子, 他 25 名(重症多形滲出性広範ガイドライン作成委員会):重症多形滲出性紅斑 スティーヴンス・ジョンソン症候群・中毒性表皮壊死症診療ガイドライン. 日皮会誌, 126(9):1637-1685, 2016.
- 2)相原道子:重症薬疹の最近の治療ー併用両方としての IVIG 療法について. J Environ Dermatol Cutan Allergol, 10(2):81-87, 2016.
- 3)相原道子:アトピー性皮膚炎の病態に基づいた新たなアプローチ 経皮食物感作と食事指導. アレルギー・免疫, 23(2):218-225, 2016.
- 4)相原道子:経皮感作とアレルギー. 職業・環境アレルギー誌, 23(2):1-8, 2016.
- 5)相原道子:特集 薬疹 update と対処法 重症薬疹に対する IVIG 療法. MB Derma, 247:57-62, 2016.
- 6)相原道子:新しい診療技術 重症薬疹における IVIG 療法. アレルギーの臨床, 36(7):692-694, 2016.
- 7)相原道子:薬疹の現状と課題, これからの展望. 皮膚病診療, 38:8-14, 2016.
- 8)加藤則人, 佐伯秀久, 中原剛士, 田中暁生, 椛島健治, 菅谷 誠, 室田浩之, 海老原 全, 片岡葉子, 相原道子, 江藤隆史, 日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン作成委員会. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016 年版. 日皮会誌, 126(2):121-155, 2016.
- 9)中村史雄, 五嶋良郎, 相原道子:皮膚における神経免疫クロストーク. 最新医学, 71(2):216-222, 2016.
- 10)馬場直子:アトピー性皮膚炎 Update 診断・治療 小児アトピー性皮膚炎の治療ポイント 母親をよき治療者に. 医学のあゆみ, 256(1):65-73, 2016.
- 11)馬場直子:退院から 1 ヶ月検診までの新生児対応 症候 皮膚症状. 周産期医学, 46(1):11-15, 2016.
- 12)馬場直子:皮膚科で診る感染症のすべて 忘れてはいけないウイルス感染症. MB Derma, 242:63-70, 2016.

- 13)馬場直子：子どもの皮膚を診る 紫外線対策. 小児内科, 48(4):618-623, 2016.
- 14)馬場直子：小児の症候群 代謝 Hunter 症候群(ムコ多糖症Ⅱ型). 小児科診療, 79(増):275, 2016.
- 15)馬場直子：小児と感染症ーこの 10 年間のアップデート 感染症各論 皮膚感染症. 小児科, 57(6):808-818, 2016.
- 16)馬場直子：各論 1 湿疹と類症 アトピー性皮膚炎. 日医会誌, 145・特別号(2):S72-S73, 2016.
- 17)馬場直子：各論 1 湿疹と類症 おむつ皮膚炎. 日医会誌, 145・特別号(2):S75, 2016.
- 18)馬場直子：各論 2 感染症 突発性発疹. 日医会誌, 145・特別号(2):S119-S120, 2016.
- 19)馬場直子：各論 2 感染症 麻疹. 日医会誌, 145・特別号(2):S121-S122, 2016.
- 20)馬場直子：夏のトラブル～予防と対策～ あせもができた！とびひになった！. チャイルドヘルス, 19(8):562-565, 2016.
- 21)馬場直子：「頭ジラミ どう対応するか？」についてお教えてください(Q&A). 日小皮会誌, 35(3):190, 2016.
- 22)高橋一夫：皮膚科の薬剤と医療機器 最近 10 年間の進歩 以前から使われている薬剤の新しい展開・問題点 大量ガンマグロブリン静注療法. 皮膚臨床, 58(6):955-960, 2016
- 23)堀内義仁：分子標的薬による皮膚障害(手足症候群を含む)に対する全国アンケート調査結果. 日臨皮医会誌, 33(1):48-55, 2016.
- 24)猪又直子：特集 小児アトピー性皮膚炎治療 update 1 経皮感作と食物アレルギー. 週刊 日本医事新報, 4793:20-27, 2016.
- 25)猪又直子：最新のトピックス 2016 Clinical Dermatology2016 皮膚科医のための臨床トピックス クラゲと納豆アレルギー. 臨皮, 70(5):158-160, 2016.
- 26)猪又直子：特集 経皮感作からとらえる皮膚疾患 クラゲ刺傷と納豆アレルギー. MB Derma. 245, 49-54, 2016.
- 27)猪又直子：Vアレルギー性疾患 12.食物アレルギー (17)口腔アレルギー症候群. 別冊 日本臨床 免疫症候群(第2版) その他の免疫疾患を含めて, 400-405, 2016.
- 28)猪又直子：特集 食物アレルギーの最前線 花粉・食物アレルギー症候群. 喘息・アレルギー, 29(2):27-33, 2016.
- 29)猪又直子：アレルギー用語解説シリーズ Dual allergen exposure hypothesis (二重抗原曝露仮説). アレルギー, 65(9):1228-1229, 2016.
- 30)猪又直子：日本発アレルギー研究最新情報 I.食物アレルギー・薬物アレルギー 経皮感作による食物アレルギー：成人例の特徴. 小児科診療, 79(10):1291-1296, 2016.
- 31)松倉節子：V. アレルギー疾患各論 職業性アレルギー疾患 職業性アレルギー性皮膚疾患. 日医会誌, 145・特別号(1) アレルギー疾患のすべて, 309-313, 2016.
- 32)松倉節子, 相原道子：特集 高齢者のアレルギー性疾患の治療と管理 加齢と皮膚の生理機能：バリア機能障害. アレルギーの臨床, 36(10):945-949, 2016.

- 33)松倉節子・相原道子:各論 8 物理的障害および薬剤による疾患 重症薬疹(TEN・DIHS). 日医会誌, 145・特別号(2):S197-S198, 2016.
- 34)松倉節子・相原道子:各論 8 物理的障害および薬剤による疾患 薬疹・中毒疹. 日医会誌, 145・特別号(2):S195-S196, 2016.
- 35)松倉節子, 相原道子:薬疹の診かた, 考え方. 日薬師会誌, 67(7):951-955, 2016.
- 36)菅原万理子, 石井則久:皮膚科で診る STI(2)梅毒—the great imitator 梅毒検査 up-to-date. *Visual Dermatology*, 15(9):886-890, 2016.
- 37)菅原万理子, 石井則久:特集 皮膚科で診る感染症のすべて ブルーリ潰瘍のすべて. *MB Derma*, 242:115-122, 2016.
- 38)中村和子, 相原道子:特集 高齢者の皮膚疾患—老年科医に知って欲しい “とっておき” の皮膚病変の診かた—見逃してはいけない高齢者の薬疹. *Geriat Med*, 54(10):987-991, 2016.
- 39)中村和子:皮膚科で診る感染症のすべて 黄色ブドウ球菌感染症のすべて. *Derma*, 242:78-84, 2016.
- 40)中村和子, 蒲原 毅:アレルギー疾患各論 アレルギー性皮膚疾患:かかりつけ医での治療と専門医紹介のタイミング. *内科*, 118(6):1081-1085, 2016.
- 41)山口由衣, 相原道子:Vアレルギー性疾患 24.薬物アレルギー (5)生物学的製剤による過敏症. 別冊 日本臨床 免疫症候群(第2版) その他の免疫疾患を含めて, 483-487, 2016.
- 42)山口由衣:まるわかり! 膠原病のすべて リウマチ性多発筋痛症・線維筋痛症の診断から治療まで. *MB Derma*, 250:77-82, 2016.
- 43)井上雄介:“マイナー”では片づけられない! 超専門領域だけど知っていてほしい救急あれこれ 皮膚科領域の救急. *EMERGENCY CARE*, 29(12):1100-1105, 2016.
- 44)井上雄介, 相原道子:V. アレルギー疾患各論 薬物アレルギー 抗がん剤. 日医会誌, 145・特別号(1) アレルギー疾患のすべて, 266-267, 2016.
- 45)高村直子, 相原道子:特集 臨床医として皮膚病変をこう診る 薬剤アレルギー. 成人病と生活習慣病, 46(1):23-33, 2016.
- 46)高村直子, 相原道子:増え続けるアレルギー疾患・内科医にできる対策と治療 特殊なアレルギー 薬疹, 中毒性表皮壊死症(TEN)/Stevens-Johnson 症候群(SJS). *内科*, 118(6):1115-1119, 2016.
- 47)石田修一:特集 皮膚科で診る感染症のすべて 非結核性抗酸菌症(NTM 症)のすべて. *MB Derma*, 242:123-129, 2016.
- 48)渡邊友也, 相原道子:特集Ⅱ 傷害関連分子パターンとアレルギー疾患 血清 HMGB1(high mobility group box1)レベルと薬剤性過敏症症候群. *臨床免疫・アレルギー科*, 66(2):152-156, 2016.
- 49)境 玲子:第7章 強迫症および関連症群 抜毛症. *臨床精神医学*, 45(増):251-254, 2016.
- 50)境 玲子:第7章 強迫症および関連症群 皮膚むしり症. *臨床精神医学*, 45(増):255-258,

2016.

著書

- 1)池澤善郎：8.ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)および中毒性表皮壊死症(TEN) I.SJS の診断基準. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 75-76, 2016.
- 2)池澤善郎：8.ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)および中毒性表皮壊死症(TEN) II.SJS と目障害. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 76-78, 2016.
- 3)池澤善郎：8.ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)および中毒性表皮壊死症(TEN) III.TEN の診断基準. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 78, 2016.
- 4)池澤善郎：8.ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)および中毒性表皮壊死症(TEN) IV.SJS と TEN の違いと発症期症状による TEN のサブタイプ分類. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 78-80, 2016.
- 5)池澤善郎：8.ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)および中毒性表皮壊死症(TEN) V.SJS および TEN の治療指針. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 80-84, 2016.
- 6)池澤善郎：8.ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)および中毒性表皮壊死症(TEN) VI.免疫低下や重症感染症がなく, ステロイドパルス療法が可能な SJS/TEN の症例. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 84-85, 2016.
- 7)池澤善郎：8.ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)および中毒性表皮壊死症(TEN) VII.免疫低下または重症感染症があり, ステロイドパルス療法が不可能な症例. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 85, 2016.
- 8)池澤善郎：8.ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)および中毒性表皮壊死症(TEN) VIII.SJS および TEN の治療指針使用上の注意点. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 85, 2016.
- 9)池澤善郎：8.ステイブンス・ジョンソン症候群(SJS)および中毒性表皮壊死症(TEN) IX.SJS および TEN の予後. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 86, 2016.
- 10)相原道子：2.重症薬疹の分類 1 重篤な即時型薬疹と遅延型薬疹. 薬疹の診断と治療アップデート 重症薬疹を中心に(塩原哲夫編), 医薬ジャーナル社(大阪), 22-23, 2016.
- 11)相原道子：2.重症薬疹の分類 2 臨床症状および病理組織学的所見による分類. 薬疹の診断と治療アップデート 重症薬疹を中心に(塩原哲夫編), 医薬ジャーナル社(大阪), 23-27,

2016.

- 12)相原道子：2.重症薬疹の分類 3 発症に関与する炎症細胞による分類. 薬疹の診断と治療アップデート 重症薬疹を中心に(塩原哲夫編), 医薬ジャーナル社(大阪), 27-29, 2016.
- 13)相原道子:第3章 おもな皮膚疾患 F薬疹 1.薬疹.皮膚科研修ノート(佐藤伸一, 藤本 学編), 診断と治療社(東京), 310-312, 2016.
- 14)相原道子：5 重症薬疹. 皮膚疾患ベスト治療 臨床決断の戦略・エビデンス(宮地良樹編), 学研メディカル秀潤社(東京), 43-51, 2016.
- 15)相原道子：薬疹 2 重症薬疹の免疫グロブリン静注(IVID)療法. What's new in 皮膚科学 2016-2017(宮地良樹, 鶴田大輔編), メディカルレビュー社(東京), 88-89, 2016.
- 16)相原道子：5 アレルギーマーチを断つ 2)アトピー性皮膚炎からのアレルギーマーチ進展予防 1.アレルギーマーチと皮膚バリア障害. アレルギーマーチを断つ～ガイドライン準拠による拡大予防～(荒川浩一編), 医薬ジャーナル社(大阪), 160-161, 2016.
- 17)相原道子：5 アレルギーマーチを断つ 2)アトピー性皮膚炎からのアレルギーマーチ進展予防 2.スキンケアによるアレルギーマーチ進展予防. アレルギーマーチを断つ～ガイドライン準拠による拡大予防～(荒川浩一編), 医薬ジャーナル社(大阪), 161-163, 2016.
- 18)川口博史：第3章 おもな皮膚疾患 M ウイルス感染症 7.Kaposi 水痘様発疹症. 皮膚科研修ノート(佐藤伸一, 藤本 学編), 診断と治療社(東京), 420-421, 2016.
- 19)馬場直子：第3章 おもな皮膚疾患 U 年齢からのアプローチ 1.新生児・乳児にみられる生理的皮膚変化と皮膚疾患. 皮膚科研修ノート(佐藤伸一, 藤本 学編), 診断と治療社(東京), 566-571, 2016.
- 20)馬場直子：多発する伝染性軟属腫,MB Derma 創刊 20 周年記念書籍(宮地良樹編集),全日本病院出版会(東京), 183-189,2016.
- 21)馬場直子：アトピー性皮膚炎. おむつ皮膚炎, 皮膚疾患ペディア(片山一朗監修), 日本医師会発行、医学書院(東京) 72-75、2016.
- 22)馬場直子：突発性発疹. 麻疹, 皮膚疾患ペディア(片山一朗監修), 日本医師会発行,医学書院(東京), 119-122,2016.
- 23)馬場直子：小児アトピー性皮膚炎の治療のポイント, アトピー性皮膚炎 UPDATE. 別冊, 医学のあゆみ (佐藤伸一編集), 医歯薬出版(東京), 65-73,2016.
- 24)高橋一夫：II 以前から使われている薬剤の新しい展開・問題点 大量ガンマグロブリン静注療法. 皮膚科の臨床 5 月臨時増刊号 皮膚科の薬剤と医療機器 最近 10 年間の進歩(大塚藤男, 他 編), 金原出版(東京), 955-960, 2016.
- 25)猪又直子：蕁麻疹・かゆみ 1 サーファーと納豆アレルギー. What's new in 皮膚科学 2016-2017(宮地良樹, 鶴田大輔編), メディカルレビュー社(東京), 56-57, 2016.
- 26)猪又直子：4 食物アレルギー. 皮膚疾患ベスト治療 臨床決断の戦略・エビデンス(宮地良樹編), 学研メディカル秀潤社(東京), 34-42, 2016.
- 27)猪又直子：3 口腔アレルギー症候群と花粉. 内科医が知っておきたいアレルギー性鼻炎

診療(山口正雄編), 文光堂(東京), 69-74, 2016.

28)猪又直子: 6章「膠原病・リウマチ・アレルギー疾患を診療する」6. その他のアレルギー疾患 1. 食物アレルギー. 膠原病・リウマチ・アレルギー研修ノート(永井良三総監修), 診断と治療社(東京), 502-504, 2016.

29)猪又直子: 第3章 主な皮膚疾患 A. 皮膚炎・湿疹 コラム: 毛染めについての知識. 皮膚科研修ノート(佐藤伸一, 藤本 学編), 診断と治療社(東京), 283, 2016.

30)猪又直子: アトピー性皮膚炎. 今日の治療指針(福井次矢, 高木 誠, 小室一成総編集), 医学書院(東京), 1229-1231, 2016.

31)猪又直子: 4 食物アレルギー. 皮膚疾患ベスト治療 臨床決断の戦略・エビデンス(宮地良樹編), 学研メディカル秀潤社(東京), 34-42, 2016.

32)猪又直子: 第4章 皮膚疾患の基礎知識 9 蕁麻疹. マイスターから学ぶ皮膚科治療薬の服薬指導術(大谷道輝, 宮地良樹編), メディカルレビュー社(東京), 292-295, 2016.

33)松倉節子, 相原道子: 第1章 薬物療法の基礎知識 その他の治療薬 Q13 免疫グロブリン大量静注療法(IVIG)の使い方について教えてください. マイスターから学ぶ皮膚科治療薬の服薬指導術(大谷道輝, 宮地良樹編), メディカルレビュー社(東京), 198-199, 2016.

34)職業性アレルギー疾患診療ガイドライン 2016 作成委員会(松倉節子, 他): 職業性アレルギー疾患診療ガイドライン 2016(日本職業・環境アレルギー学会監修), 協和企画(東京), 2016.

35)山口由衣, 相原道子: 13.生物学的製剤による過敏症 I. 生物学的製剤による投与時反応. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 136-139, 2016.

36)山口由衣, 相原道子: 13.生物学的製剤による過敏症 II. TNF α 阻害薬によって誘発される乾癬様皮疹ー逆説的反応ー. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 139-141, 2016.

37)山口由衣, 相原道子: 13.生物学的製剤による過敏症 III. TNF α 阻害薬による薬剤誘発性ループス. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方,(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 141-143, 2016.

38)山口由衣, 相原道子: 13.生物学的製剤による過敏症 IV. モガムリズマブによる重症薬疹. 実臨床に役立つ薬物アレルギーの対処法と考え方(山口正雄編), 医薬ジャーナル社(大阪), 143, 2016.